



スピリット 常中魂

平成28年 9月 8日 NO.30
〒311-1114 水戸市塩崎町1016
TEL029-269-2116
FAX029-269-3160
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】

2学期の抱負



『息』自らの心
常中魂の神髄の一つだ。
『息を吐く』誇りをもって自らの心を述べることが、息を吐くということ。左の写真は、原稿無し、しかも覚えてきたことを頭の中でなぞっているのではなく、『自らの心を、自らの言葉で、生徒たちに語りかけている』佐藤実行委員長の様だ。
から『いい！』今後の常中の存続、方向性を示す姿となるだろう。

感動・感謝の体育祭
体育主任 大内奈津美
「生徒がつくる体育祭」
私たちが最も目指している在り方です。
この行事を通して、生徒がどのように成長するのか、私たち教師は、その成長のためのコーディネーター役であると思っています。
はじめに、実行委員長の佐藤慎祐さんに「どんな体育祭にしたいのか、実行委員長であるあなたに思いをみんなに伝える事が大切だよ」という話をし、全体練習では必ず委員長からの挨拶を行いました。
時には体調面を心配した内容、時には暑さと疲れを吹き飛ばすようなエールを全校生徒に向けてくれました。
そして体育祭当日の実行委員長の挨拶。私が想像していたよりも

今年の体育祭は、文句なしで最高の体育祭でした。優勝したわけでも、いろいろな種目で一位になったわけでもありません。本当だったら口惜しいんだと思います。でも、今回の体育祭は三年間で最後の体育祭だったので最初から悔いの残らないように、精一杯の力を尽くしました。
実行委員長ということもあり、練習の時からずつと責任を感じていました。ですから、体育祭が終わって肩の荷が下りたと、しみじみ感じています。そして同時に『何に関してもやりきった』という気持ちももっています。
このような気持ちで終わることができた自分自身と、自分の思いを支えてくれた常中の全員に感謝の気持ちをもって、終わることができました。

体育祭実行委員長 佐藤 慎祐
はるかにすばらしく、彼は体育祭の事を真剣に考え、全体の事を、思っていたことに気付かされ、胸が熱くなりました。
その委員長の思いを受け止めるかのように応援団長の高繁さん・中井川さん・松村さんがそれぞれ、その団を見事にまとめ上げ、勝利の結果が出て、片付けも中盤にさしかかった頃、団長三人が来て、「先生、ありがとう、ごさいました」という言葉をもらいました。
私のほうこそ「ありがとう」と伝えたい。この体育祭の成功は実行委員長をはじめ、団長、そして各係で活躍してくれた生徒、学級のために全力で競技に励んだ生徒の力なくしてはあり得ないのですから。
たくさん感動を「ありがとう」

体育祭はなぜ成功したか、様々な要因が考えられます。その一つに当日までの練習態度があるでしょう。下4枚は練習中の生徒の姿です。



体育祭の演技風景(爽やかさが伝わる)